



主な内容

巻頭言

全学教育推進機構長就任挨拶
キャリア支援センター長就任挨拶
リエゾンセンター長就任挨拶

活動報告

アフリカ南部モザンビーク共和国におけるサイクロン被害
に対する国際緊急援助隊医療チームとしての活動

特集

総合移転整備計画の歩み

トピックス

小川理事長が日本私立医科大学協会の新会長に、
三浦副学長が日本私立歯科大学協会の会長に就任しました

表紙写真：「引き渡しを迎えた矢巾新病院と矢巾キャンパス」

全学教育推進機構長就任挨拶

全学教育推進機構長
シミュレーションセンター長

佐藤 洋一



このたび、2019年3月をもちまして、本学医学部教授を定年退職いたしました。小川理事長と祖父江学長の御高配により、引き続き全学教育推進機構長の役職を拝命し、あわせてシミュレーションセンター長へ就任いたしました。ここに、誌面を借りて大学内の皆様にご挨拶を申し上げたいと存じます。

全学教育推進機構は、学部間の教育の調整にあたる部門として2007年に設立された全学教育運営委員会をもとにして、2014年に改組されました。当初は連絡調整が主でしたが、次第に大学全般の教育戦略を考える役目を負ってきたように思います。文部科学省の政策誘導が、大学全体の教育ガバナンスを求めるようになったからです。もとより本学のどの学部も国家試験の合格者数向上を責務としていところもありますし、それについて邁進しなければならないところでしたが、国家試験の合格率の低迷は、物的・人的な教育資産の全学的な整備を怠ってきたことに起因するところも大であるように思います。とりわけ、今後考えなければならないのは学部ならびに初期研修におけるシミュレーション教育の充実です。これまではon the job trainingで行われてきたことが多かった技能修練ですが、医療安全の観点からシミュレーション教育を充実することが望まれています。その点で、シミュレーションセンターを設けたのは時宜を得たと申せましょう。

教育環境整備の例として想定されるものに、以下の事項が上げられます。シミュレーションセンターのスタッフならびに機器購入(新規・更新)と維持管理が必要となります。技術の向上に関しては、御遺体あるいは大型動物を使った高度医療技術修練も、今後は整備対象に含まれます(Cadaver Surgical Trainingに関しては、既に本学では耳鼻咽喉科学講座の佐藤宏昭教授を中心に始められておりますが、更なる機器の整備が望まれますし、Pig Centerも

欲しいところです)。客観的技能試験(OSCE)は進級・卒業要件になってきましたが、その試験に用いられるシミュレーターの手配、また演習中あるいは試験中の技能・態度を記録しておく装置の設置も考えなければなりません。また、矢巾キャンパスの講義棟・実習棟の教育機器は2007年に整備されて以来、基本的な構成は変えられておらず、次々に更新の時期を迎えています。無線LANは今の水準から言えば貧弱ですし、学生自己学修に有用なe-learningシステムのコンテンツ作成設備と機材は現時点ではありません。図書館にはデジタル教科書を整備したいところですし、学生寮の中には学修を促す仕器が必要です。人格陶冶に必須と言われている教養を教えるスタッフの補充も急務です。思いつくままに列記してもこれだけあります。学内の皆様は他にもいろいろお気づきのことがあるかと思います。

本学の教学における問題点は、こうした要求が各部門からばらばらに行われてきたことにあります。全体像が見えないまま、年度毎に対処にあたっていたわけですが、これからは大学の整備方針が戦略的になされる必要があります。大学の経営は楽観を許さない状況ですから、共有化と効率化、優先順位および実現可能性を考慮して、全学的コンセンサスを得た後、整備にあたっての中長期のグランドデザインを作成して、実施する必要があります。予測不可能な突発事態も想定されることから、計画通りに進められるとは限りませんが、それだからこそ、グランドデザインに基づいた教育運営が求められます。全学教育推進機構の位置づけは、まさしく教育戦略の策定と臨機応変の作戦立案、そして実行にあると思います。その際に最も大事なことは、正確な情報収集であります。学内の皆様方からは、是非とも建設的なご意見を全学教育推進機構にお寄せいただくよう、お願い申し上げます。

キャリア支援センター長就任挨拶

キャリア支援センター長

中西 真弓

(生物薬学講座機能生化学分野 教授)



本年4月より、前任の大橋綾子教授からキャリア支援センター長を引き継ぐこととなりました。医学部教授2名（平英一、下沖収）、歯学部教授2名（原田英光、佐原資謹）、薬学部教授3名（小澤正吾、奈良場博昭、松浦誠）、看護学部教授3名（末安民生、蛭崎奈津子、遠藤龍人）で構成するセンター会議、学部ごとの教員で構成する専門部会、並びに事務室（井上拓也室長、木村佳奈子係長、細川栄子事務員）の各組織構成員とともに本センターを運営して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、薬学部1期生の卒業・就職に合わせて本センターが誕生してから9年が過ぎ、今年度で10年目の節目の年となります。これまでに、薬学部卒業生として750名を超える医療人を輩出して参りました。在学時のアンケートや就職状況から、多くの学生が希望に添った就職を果たしていることがわかります。また、卒業生が職場で信頼され、生き生きと活躍している様子を見聞きするにつけ、教員冥利に尽きると心より嬉しく思っております。地方における医師、歯科医師、薬剤師、看護師不足は深刻で、本学の卒業生が社会に待ち望まれていることを肌で感じます。今後も学生のキャリア形成をきめ細かくサポートし、医療系大学として社会に貢献したいと、スタッフ

一同気持ちを引き締めております。

平成29年に看護学部が開設され、本学は、医・歯・薬・看護の4学部が揃う希有な医療系総合大学となりました。来年度は待望の看護学部1期生が卒業します。看護学部についても、チーム医療の担い手となる優秀な人材の輩出が待ち望まれております。在学時から、寮生活、学部合同セミナー、部活動など学部間の交流が活発で、お互いに切磋琢磨しながら成長してきた学生達です。本学卒業生によるドリーム医療チームの誕生を楽しみにしつつ、看護学部学生のキャリア形成支援も滞りなく進めて参ります。

18歳人口の減少や医薬品及び医療機器に関する法改定などもあり、明るいニュースばかりではありませんが、確かな基礎力と高度な専門性、倫理観を身につけた人材を育成し、卒業後のびのびと活躍させることで、社会も大学も活性化すると考えております。

最後になりますが、本学の同窓会組織である圭陵会は各地に支部会があり、日本全国どこに就職しても卒業生を暖かく支援して頂いております。学内の皆様、圭陵会の皆様、今後も引き続きキャリア支援センターの活動にご協力、ご指導賜りますよう心よりお願い申し上げます。

リエゾンセンター長就任挨拶

リエゾンセンター長

吉岡 邦浩

(放射線医学講座 教授)



この度、佐々木真理前センター長の後任として4月1日付けで知的財産本部リエゾンセンター長を拝命いたしました。初代センター長の人見次郎先生から数えまして3代目のリエゾンセンター長を拝命し、これまで築き上げてこられた産学連携・知的財産マネジメントの更なる発展という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

2002年に国家戦略として知財立国が打ち出されて以来、世界の情勢はIoT関連技術、ビッグデータ、人工知能などに牽引される第4次産業革命の渦中にあります。「モノ」よりも「サービス」や「情報」、「アイデア」等が重要となる中、知的財産は、これまでとは違う形で価値創出の核心になると考えられております。大学は、知的財産を適切に保護・活用する戦略的な知的財産マネジメントと制度改正等への対応を含めたリスクマネジメントを適切に実行することで、保有する研究資源をイノベーション創出に結び付け、大学に対する社会的な期待と信頼を向上させ、より一層の成長を目指すことが重要となります。

そのためには、知的財産の活用方策を意識した適切なマネジメントや知的財産の大学経営上の活用意義を明確にし、大学の戦略の1つとして

経営レベルで知的財産をマネジメントすることが必要となってまいります。併せて、産学連携活動や知的財産マネジメントをイノベーション創出や事業化の視点で評価することも必要です。また、大学単独保有の特許権取得を強化し、共有特許権も含めた知的財産権の活用方策を適切に選択する知的財産マネジメントを実行することが必要となります。

リエゾンセンターは、専任スタッフに加え弁理士やコーディネーターといった外部専門家と協力しながら、多角的に産学連携活動と知的財産マネジメント活動を行い、医歯薬系の医療系総合大学としての本学の特色を生かした産業界との異分野融合によるライフイノベーションを推進しております。産学連携の研究開発プロジェクトの初期段階から積極的に関与し、産学の対話を通じたパートナーシップを強化することで高度な産学連携の推進と知的財産マネジメントを実現できるよう活動を行いたいと考えております。大学の産学連携と知的財産マネジメントの担い手として、微力ではございますが全力を尽くす所存です。教職員の皆様の益々の御支援・御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

アフリカ南部モザンビーク共和国におけるサイクロン被害に対する国際緊急援助隊医療チームとしての活動

救急・災害・総合医学講座 災害医学分野

期 間／2019年3月28日（火）～4月10日（水）
場 所／モザンビーク共和国 ベイラなど
派遣者／藤原 弘之（救急・災害・総合医学講座 災害医学分野 助教）

活動概要

2019年3月中旬以降、南部アフリカで発生したサイクロンがモザンビーク中北部に上陸したことに伴い、大規模な豪雨・洪水被害が発生し、死傷者を含む多数の避難民と物的被害をもたらした。モザンビーク政府によると、3月24日時点の被害状況は、死者446人、被災者は約52万人（外務省ホームページより）。我が国政府は、モザンビーク共和国におけるサイクロン被害に対し、同国政府からの要請を受け、国際緊急援助隊・専門家チーム及び医療チームを派遣することを決定した。本学救急・災害・総合医学講座災害医学分野の藤原弘之は3月28日～4月10日（移動含む）の期間で医療チーム1次隊のメンバーとして派遣された。

医療チーム1次隊の活動における総受診者数は300人以上で急性期医療の必要性が高かったのはマラリア、コレラ、外傷であった。特にマラリア罹患者は20人を超え、国際緊急援助隊医療チームの介入により多くの患者に対して重症化を予防できた。サイクロン被災者に加え元々医療の乏しい環境でもあり、医療を必要としている患者に必要な医療を提供できた。

チームの活動・生活環境としても、灼熱の屋外活動、長期野営、通信は衛星回線のみなど非常に過酷な環境であったが、それぞれの能力を最大限に発揮し国際緊急援助隊医療チームとして高いパフォーマンスを維持することができた。東日本大震災時に世界各国から支援していただいた当県の立場からも国際災害支援の一端を担えたことは非常に感慨深い。



現地での活動（藤原助教）



活動拠点



診察の様子

総合移転整備計画の歩み ～第一次事業から矢巾新病院竣工まで～

本学では内丸地区の建物の老朽化と狭隘さにより、日々進歩する医療へ迅速に対応できる環境を求め、総合移転整備計画を策定し、約17年にわたり矢巾地区への移転整備事業を進めてきました。本年9月に矢巾新病院が開院することから、これまでの本計画の歩みについて紹介します。

■ 総合移転整備計画の概要

平成14年に本法人理事会での「総合移転整備計画」の決定から始まり、第一次事業（平成19年）、第二次事業（平成23年）による学部・研究部門の移転完了を経て、最終事業として、令和元年9月21日に附属病院移転を完了させます。当計画では、広大で緑豊かな矢巾の地で医・歯・薬・看護学部が連携した医療系総合大学として教育・研究・医療環境の一層の充実を図ることを目的としています。

<第一次事業>

- 薬学部の新設
- 教養部の矢巾移転

<第一次事業新築工事>

- ・キャンパスモール①
- ・東研究棟②
- ・東講義実習棟③
- ・図書館棟④
- ・体育館棟⑤
- ・学生寮⑥

<第二次事業>

- 医学部、歯学部の基礎講座及び共同研究部門の矢巾移転

<第二次事業新築工事>

- ・本部棟⑦
- ・西研究棟⑧
- ・西講義実習棟⑨
- ・動物研究センター⑩
- ・超高磁場先端MRI研究所⑪
- ・キャンパスタワー⑫
- ・琢誠館⑬

<附属病院移転事業>

- 附属病院の矢巾移転
- 附属病院関連施設の建設

<附属病院新築工事>

- ・ドクターヘリ基地、ヘリポート⑭
- ・エネルギーセンター⑮
- ・矢巾新病院⑯
- ・附属病院関連施設
(トクタヴェール⑰、コスモス館⑱、やはばなかよし保育園⑲、ホテルルートイン矢巾ー岩手医大病院ー⑳)



■ 総合移転整備計画の歩み

- 2001年 2月 (平成13年) ● 矢巾町から土地提供の申し入れ
- 2002年 8月 (平成14年) ● 理事会にて矢巾町西徳田地区(A・B敷地)、
藤沢地区(C敷地)の用地取得交渉の実施決定
- 2003年 1月 (平成15年) ● 矢巾キャンパス用地売買契約締結調印式 **1**
- 2005年 12月 (平成17年) ● 第一次事業新築工事開始 **2**
- 2007年 3月 (平成19年) ● 第一次事業新築工事竣工
- 2007年 4月 (平成19年) ● 矢巾キャンパスに薬学部及び共通教育センター開設 **3**
- 2009年 1月 (平成21年) ● 理事会にて医・歯学部及び基礎講座・共同研究部門
の移転決定
- 2009年 12月 (平成21年) ● 第二次事業新築工事開始 **4**
- 2011年 1月 (平成23年) ● C敷地土地売買契約調印式 **5**
- 2011年 2月 (平成23年) ● 第二次事業新築工事竣工 **6**
- 2011年 4月 (平成23年) ● 矢巾キャンパスに医・歯学部の基礎講座
及び共同研究部門を移転
- 2011年 10月 (平成23年) ● C敷地第一工区造成工事完了
- 2012年 3月 (平成24年) ● ドクターヘリ施設竣工 **7**
- 2013年 3月 (平成25年) ● 災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア
教育研究棟竣工 **8**
- 2016年 3月 (平成28年) ● エネルギーセンター竣工 **9**
- 2017年 3月 (平成29年) ● 矢巾新病院新築工事着工 **10**
- 2017年 4月 (平成29年) ● 矢巾キャンパスに看護学部開設、
創立120周年記念式典 **11**
- 2018年 12月 (平成30年) ● やはばなかよし保育園竣工 **12**
- 2019年 6月 (令和元年) ● 矢巾新病院竣工
- 2019年 7月 (令和元年) ● 矢巾新病院落成セレモニー
- 2019年 9月 (令和元年) ● 矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院

※矢巾新病院の詳細は次号に掲載予定です。



学校法人岩手医科大学

令和元（2019）年度予算

1. 予算編成にあたって

令和元年度は、総合移転整備事業、特に竣工を迎える矢巾新附属病院の他、店舗棟など、周辺付属施設の整備の事業資金の調達を最優先とし、加えて内丸地区整備の早期着工や矢巾地区教育研究環境の充実に向けた事業資金の積立計画を着実に実施する必要があります。

一方、建築資材等の高騰や令和元年10月の消費税の増税などが本学の経営に大きな影響を及ぼすことが予想されています。

このような厳しい環境下において、大学経営の安定には入学定員充足による学生生徒納付金の確保が不可欠です。また、本学の事業活動収入は約7割を医療収入が占めていることから、財政の持続的安定のためには、一層の患者確保に努

め、医療収入の増収対策を推進するとともにコスト削減を図り、多額の資金を要する総合移転整備事業遂行のための資金の確保に努めます。

これらのことから、令和元年度予算は、矢巾新附属病院の建設費用と内丸メディカルセンターの新棟建設資金を中心とし、収入については、附属病院移転前後の医療収入の減少を最小限に留めるとともに、矢巾新附属病院及び内丸メディカルセンターのそれぞれの病院機能を最大限に活用し医療収入の増収に努めるほか、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図ります。また、支出については社会的要請に応じた教育・研究・診療を円滑に遂行できるよう配慮のうえ可能な限り圧縮した予算としました。

2. 主な予算項目

令和元年度事業活動収支予算（項目1～6）、資金収支予算（項目7～11）の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金82億3,586万円（事業活動収入に占める割合15.8%）、医療収入352億2,764万円（同67.7%）、補助金46億4,972万円（同8.9%）を計上しました。これら3項目で事業活動収入の92.4%を占めています。その他の収入は39億4,000万円（同7.6%）を計上し、事業活動収入予算総額は520億5,322万円を計上しました。

支出予算では、人件費229億1,300万円（事業活動支出に占める割合42.4%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）148億6,605万円（同27.5%）、教育研究用等の経費など162億7,417万円（同30.1%）を計上し、事業活動支出予算総額は540億5,322万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△120億円の組入を計上したことにより、令和元年度は△142億円の支出超過（赤字）を計上した予算編成となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約67.7%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約69.9%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部46億9,894万円、歯学部15億8,154万円、薬学部13億8,788万円、看護学部4億1,945万円、医療専門学校9,620万円、岩手看護短期大学5,185万円、合計82億3,586万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院（内科）（上期）、歯科医療センター（通年）、循環器医療センター（上期）、PET・リニアック先端医療センター（上期）、矢巾附属病院（下期）、内丸メディカルセンター（下期）を合計した医療収入予算は、入院収入243億8,954万円、外来収入105億4,866万円、その他の医療収入2億8,944万円、合計352億2,764万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学経常費補助金17億7,415万円、その他の国庫補助金6億4,863万円、また、地方公共団体補助金は9億3,038万円を計上し、合計33億5,316万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金12億9,656万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は、社会情勢を考慮し定期昇給分0.54%を見込んで216億4,918万円、また、退職金関係では12億490万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計229億1,300万円を計上しました。

5.医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費78億5,576万円(医療経費率22.3%)、医療材料費67億9,893万円(同19.3%)、給食材料費2億1,136万円(同0.6%)を計上し、医療経費は合計148億6,605万円(同42.2%)を計上しました。

6.研究費

医学部・歯学部・教養教育センターの講座研究費は、講座の組織改編等に伴い基本額を調整し配分額の変更を行いました。薬学部・看護学部の講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

7.借入金等収入

附属病院移転建設工事に係る支払資金として、市中金融機関からの借入金285億円を計上しました。

8.借入金等返済支出

市中金融機関からの短期借入金返済資金として125億円を計上しました。

9.借入金等利息支出

市中金融機関からの借入金利息資金として6,516万円を計上しました。

10.施設関係支出

建物・建物付属設備等は、中病棟4号機エレベーター制御改修工事等3億円を計上しました。

建設仮勘定は、病院移転整備事業として、附属病院移転建設工事197億8,084万円、内丸地区整備工事5億円、合計202億8,084万円を計上しました。

11.設備関係支出

病院移転整備事業における機器備品100億円、病院移転に伴う病院システム整備16億円2,393万円など、合計121億2,393万円を計上しました。

令和元年度 事業活動収支予算書				(単位：千円)	
区分	収入の部		支出の部		
	科 目	金 額	科 目	金 額	
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,235,860	人件費	22,913,000	
	手数料	262,450	医療経費	14,866,050	
	医療収入	35,227,640	消耗品費	769,600	
	寄付金	750,890	光熱水費	1,583,890	
	経常費等補助金	3,353,160	旅費	227,710	
	付随事業収入	1,627,460	修繕費	314,020	
	雑収入	851,110	業務委託費	4,332,330	
			減価償却額	4,665,200	
			その他の諸経費等	3,333,140	
	教育活動収入計	50,308,570	教育活動支出計	53,004,940	
教育活動外収支	受取利息配当金	6,080	借入金利息	65,160	
	教育活動外収入計	6,080	教育活動外支出計	65,160	
特別収支	その他の特別収入	1,738,570	資産処分差額	166,120	
			その他の特別支出	817,000	
	特別収入計	1,738,570	特別支出計	983,120	
	事業活動収入合計	52,053,220	事業活動支出合計	54,053,220	
	予備費			200,000	
	基本金組入前当年度収支差額			△ 2,200,000	
	基本金組入額合計			△ 12,000,000	
	当年度収支差額			△ 14,200,000	

令和元年度 資金収支予算書				(単位：千円)	
科 目	収入の部		科 目	支出の部	
	金 額			金 額	
学生生徒等納付金収入	8,235,860		人件費支出	22,986,020	
手数料収入	262,450		諸経費支出	25,416,580	
医療収入	35,227,640		借入金等返済支出	12,500,000	
寄付金収入	1,158,490		借入金等利息支出	65,160	
補助金収入	4,649,720		施設関係支出	20,580,840	
付随事業収入	1,627,460		設備関係支出	12,135,030	
受取利息・配当金収入	6,080		資産運用支出	2,503,000	
雑収入	851,110		その他の支出	4,567,540	
借入金等収入	28,500,000		予備費	500,000	
前受金収入	1,449,240		資金支出調整勘定	△ 3,731,280	
その他の収入	15,890,210		次年度繰越支払資金	10,143,990	
資金収入調整勘定	△ 9,191,380				
前年度繰越支払資金	19,000,000				
収入の部合計	107,666,880		支出の部合計	107,666,880	

※詳細な説明・確認等を希望される方は、法人事務部経理課（内線：3214・3215）まで照会願います。

ふれあい看護体験が行われました

5月13日（月）、本学附属病院において、ふれあい看護体験が行われました。今年は県内の高校生59名が参加し、実際のユニフォームに袖を通し、緊張した面持ちで体験に臨みました。

生徒たちはそれぞれの体験場所となる病棟で患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、患者さんとのコミュニケーション、手術室の見学などを行いました。

体験終了後、佐藤看護部長より、修了生を代表して岩手県立盛岡第四高校の工藤未来さんに、修了証が授与されました。参加した生徒からは、「看護師さんが患者さんと笑顔で話しているのをみて、看護師の魅力を感じた」、「今日の体験を通じてやっぱり看護師になりたいと思った」などの感想が寄せられました。



高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程開講式が行われました

5月17日（金）、創立60周年記念館10階会議室において、高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程の開講式が行われました。

木村センター長（緩和医療学科・教授）から「一日も早く緩和ケア認定看護師として、患者さんやご家族の心を支え、希望を与える存在となって活躍してほしい」と式辞がありました。また、第8期生となる今年度の研修生13名を代表し、北海道済生会 小樽病院の藤原大地さん（写真）が「最新の知識と技術を習得し、エビデンスに基づいた看護実践力を養って参ります」と決意を述べました。



薬学部2学年の講義「早期臨床体験～被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ～」が行われました

5月13日（月）から5月17日（金）にかけて、薬学部2学年の必修科目「早期臨床体験～被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ～」が行われました。この授業は臨床に関する様々な事象を体験し、薬剤師として自らが目指す目標を考えることを目的とした授業で、昨年度から開講されています。

授業では避難所運営ゲームや災害時のDVD視聴などの事前学習を行った上で、沿岸被災地を訪問し、行政担当者や地元薬剤師の方々から東日本大震災津波での対応についての話を伺いました。学生たちは、発災時や被災後の地域における薬剤師の役割について学びを深め、充実した1週間となりました。



避難所運営ゲーム（矢巾キャンパス）



薬剤師による映像を交えた講義（大槌町役場）



防潮堤の見学（宮古・田老地区）

薬学部白衣授与式が行われました

5月17日（金）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、薬学部白衣授与式が行われました。式では保護者や薬学部教員が見守るなか、三部薬学部長、奈良場教務委員長、松浦実務実習部会長より、実務実習で臨床の場に第一歩を踏み出すこととなる薬学部5学年の学生に白衣が授与されました。



三部薬学部長

三部薬学部長から「積極的、前向きに実務実習に取り組み、是非成長して帰ってきていただきたい」と激励しました。また、学生を代表し、小泉真さんは「本学の建学の精神である『誠の人間』を目指し、誠心誠意臨床実習に取り組んで参ります」と力強く宣誓しました。



学生代表による宣誓



白衣を授与された学生達

内丸地区周辺の町内会・自治会の皆様との意見交換会が行われました

5月22日（水）、創立60周年記念館9階第二講義室において、内丸地区周辺の町内会・自治会の皆様約80名の方々にお集まりいただき、本学附属病院移転・内丸地区跡地活用についての意見交換会が行われました。

当日は本学総合移転計画事務室の担当者から、附属病院移転の概要や患者搬送計画などについて説明がありました。



また、参加者からは患者搬送による交通規制や内丸メディカルセンターの建設時期、内丸地区跡地活用などについて、積極的な質問・意見をいただきました。

内丸地区の跡地活用については、中心市街地を魅力ある街にするため、関係機関や地域住民の方からのご意見をお聞きしながら、引き続き慎重に議論を進めていきます。



小川理事長が日本私立医科大学協会の新会長に、 三浦副学長が日本私立歯科大学協会の会長に就任しました

5月23日（木）、日本私立医科大学協会の第111回総会において、本法人の小川彰理事長が同協会の会長に選出され、同日付で就任しました。任期



小川理事長



三浦副学長・歯学部長

は令和3年5月に開催される総会までの約2年間です。

また、6月3日（月）、日本私立歯科大学協会の令和元年度第3回理事会において、本学の三浦廣行副学長・歯学部長が同協会の会長に再任されました。任期は令和元年6月28日から2年間となります。

両協会は私立医科・歯科大学の教育、研究および経営に関する研究調査などを通じて、私立医科・歯科大学の振興を図り、医学・歯学および医学・歯学教育の進歩発展に貢献することを目的として其々設立された団体であり、現在私立医科大学協会は29校、私立歯科大学協会は17校が加盟しております。

両協会の会長が同じ大学から同時に選出されるのは初めてであり、両会長には、医学・歯学界をめぐり山積する諸問題の解決に向けて、両協会のトップとして強いリーダーシップが期待されています。

ライオンズクラブ国際協会様から 本学眼球銀行へ寄付金が贈呈されました

5月28日（火）、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナーである猿舘伸俊様らが来学され、本学眼球銀行（岩手医大アイバンク）に1,239,824円のご寄付をいただきました。

同協会からの寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。アイバンク総裁の祖父江学長は、「趣旨にそえるよう大事に活用させていただきたい」として、同協会へ感謝状を贈呈しました。



左から：ライオンズクラブ国際協会・藤澤様、鶴澤様、猿舘様と祖父江学長

矢巾キャンパスの住所変更と 法人の事務所及び大学本部移転のお知らせ

矢巾町の住居表示実施に伴い、令和元年6月29日から本学矢巾キャンパスの住所が「矢巾町大字西徳田第二地割1番地1」から「矢巾町医大通一丁目1番1号」に変更されました。また、矢巾新病院の引き渡しに伴い、法人の事務所及び大学本部は本年7月1日付で矢巾キャンパスに移転することとなりました。

なお、私学共済等関係団体や学会等に登録する大学本部の住所、所在機関の住所は、矢巾キャンパスの住所となります。



地区・建物	郵便番号	住 所
矢巾キャンパス (法人の事務所及び大学本部)	028-3694 (現状まま)	紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号
矢巾新病院 (9月21日開院)	028-3695 (新規)	紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号
内丸地区及び現附属病院 (9月21日以降、内丸メディカルセンター)	020-8505 (現状まま)	盛岡市内丸19番1号 (現状まま)



泌尿器科学講座の 塩見 叡 専門研修医が第259回日本泌尿器科学会 東北地方会において、優秀演題賞を受賞しました

この度、第259回日本泌尿器科学会東北地方会（平成31年4月27日：山形市）におきまして、演題「透析腎に発生した淡明細胞乳頭状腎細胞癌の一例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。淡明細胞乳頭状腎細胞癌（CCPRCC）は腎腫瘍のうちの1～4%とされる腫瘍であり、透析腎から発生するものとしては当院では本症例が初めての経験となりました。CCPRCCはその分子生物学的な発生過程については不明な部分が多く、今回はmicroRNAに着目し、その発現量を解析して腫瘍発生過程について検討しました。結果としましては、淡明細胞型腎細胞癌（CCRCC）では既に報告されていたmiR-155が関わるタンパク経路が本疾患においても関与している可能性を導くことができました。今回の賞は、これらの検討過程について評価頂いたものと考えております。

今回の発表に際して、小原航教授をはじめとする当講座の医局員の先生方、病理診断学講座の菅井有教授、石田和之准教授にご指導を賜りました。さらに、御協力を頂きました検査技師様やスタッフ様に深くお礼申し上げます。

（文責：泌尿器科学講座 専門研修医 塩見 叡）



新入職員の声

～研修を通じて学んだこと～



4月1日から5日にかけて行われた新人職員オリエンテーションの感想をご紹介します。

なお、研修の日程・内容は職種により一部異なります。



中央放射線部 診療放射線技師

高橋 遼真

仕事をする際は患者さんを第一に考えていかなければなりません。感染症のリスクなどから自らも守っていく必要があると感じました。マニュアルを遵守しながら臨機応変に対応できるようにになりたいです。そうすることで、自らが感染症の媒介者になることなく、患者さんに安全な医療を提供できると思いました。



中央臨床検査部 臨床検査技師

五内川 有希

安全管理の不徹底は生命にかかわり、特に感染性廃棄物の院外への危険も含んでいます。臨床検査技師は尿や血液、細菌などを扱う機会が多く、技師の意識の低下はこれらが流出するリスクの上昇を招くため、他職種より一層意識を高く持つ必要があると感じました。私は臨床検査技師として、迅速かつ正確な検査結果の報告を通して医療の質の向上に貢献したいです。



薬剤部 薬剤師

鷹觜 彩香

医療人として働く場合、相手は患者さんやご家族であり、仕事であるため対価をいただくことになります。その対価に見合った仕事を私達は提供していく義務があり、加えて、薬剤師は患者さんの薬物治療にかかる安全を確保し、医療の質を向上させることに責任があります。すべては患者さんのために、地道な努力を重ねることが必要であると強く感じました。



医事課 事務員

桜庭 実紀

研修中に紹介された事件や火災の内容を知り、個人情報の取り扱いや災害への備えは常に注意を怠ってはいけなと強く感じました。また医療現場での感染症対策や廃棄物処理、自身の健康管理も患者さんや職員を守るうえでとても大切だと思いました。私は入院受付として患者さんやそのご家族の個人情報の厳守や体調管理に注意し、安心して治療に専念できる病院づくりに従事していきたいと思いました。



集中治療部 看護師

安保 諭

病院という組織の中で働くうえで様々な職種があり、連携していく必要がある点が印象に残っています。学長の講話では、患者さんを中心としたチーム医療を実践するためには、一職種でも抜け落ちてはいけなとご教授いただきました。そのためには患者さんや職種間とのコミュニケーションが不可欠であり、これから就業していく上で、特に重要なこととして実践していきたいと感じました。



循環器医療センター1階 看護師

佐藤 彩奈

挨拶や身だしなみなどについて学び、当たり前のように大切にしていること、初めて患者さんやご家族の前に立てる看護師であると考えました。看護師は患者さんの全人的な苦痛を受け止め支援していく必要があります。そのためには多くの知識や技術はもちろん必要ですが、「誠の心で接する」ことが特にあるべき姿であると感じました。

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第28回目の御芳名紹介です。(平成31年3月1日～平成31年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体（7件）

<1,200,000>

圭陵会 三八支部（青森県八戸市）

<1,000,000>

株式会社 L S I メディエンス（東京都千代田区）

医療法人 弘生堂（長野県上田市）

医療法人 緑明会（岩手県盛岡市）

<御芳名のみ掲載>

東北医療福祉事業協同組合（青森県八戸市）

株式会社 オカムラ北東北支店（岩手県盛岡市）

医療法人 七星会 小坂内科消化器科クリニック（岩手県盛岡市）

（順不同 敬称略）

●個人（13件）

<5,000,000>

佐藤 雅夫（医23）

<1,000,000>

山崎 紀一（医15）

<50,000>

臼井 みなみ（医31）

<30,000>

横澤 厚子（元教職員）

<御芳名のみ掲載>

上谷 仁雄（父母）

上谷 弘子（父母）

上谷 眞有美（学生）

齋藤 順子（医31）

久保川 学（名誉教授）

中谷 敏恭（歯8）

朝賀 純一（教職員）

後藤 幸利（父母）

宮下 守夫（父母）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭陵会	900	561,185,089
在学生ご父母	719	378,150,000
役員・名誉教授	84	110,510,000
教職員	215	28,942,000
一般	99	32,180,000
法人・団体	311	928,724,000
合計	2,328	2,039,691,089

（平成31年4月30日現在）

理事会報告（4月定例－4月22日開催）

1. 教員の人事について

統合基礎講座 解剖学講座機能形態学分野 教授

藤原 尚樹（前 同分野 准教授）

医学部 臨床腫瘍学講座 教授

板持 広明（前 医学部産婦人科学講座 講座内教授）

薬学部 医療薬科学講座衛生化学分野 教授

杉山 晶規（前 同分野 准教授）

医学部 整形外科科学講座 特任教授

村上 秀樹（前 同講座 准教授）

医学部 睡眠医療学科 特任教授

西島 嗣生（前 同学科 准教授）

（発令年月日 令和元年5月1日付）

2. 矢巾新病院エネルギーセンター煙突に係る広告物設置申請について
大学附属病院の矢巾移転に際し、エネルギーセンターの煙突（3面）にサインを表示する案について、広域からの視認の重要性を勘案し、広く略称として認知されている「大学病院」の表記を掲げる計画とし、岩手県へ申請することを承認した。

3. 矢巾新病院に係る什器備品の選定について

スポット医学講座

内科学講座消化器内科肝臓分野 教授 滝川 康裕



国民病 C型肝炎の制圧に各科医師の協力を！

C型肝炎感染者は世界中で1.85億人に達して肝硬変、肝癌死亡の主たる原因となり、2012年には米国の肝移植の成因の40%を占めました。1989年に原因ウイルス（HCV）が発見されたことで献血からの排除が可能になるなど予防法・治療法が進歩し、2014年にはHCV直接作用型抗ウイルス薬（DAA）のみによる治療が認可されました。現在ではDAA 8-12週間の内服でほとんど副作用もなく95-100%のウイルス排除が可能になりました（図1）。

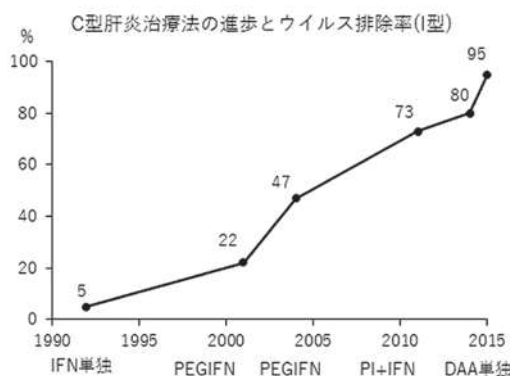


図1

日本でのHCV蔓延は世界でもっとも早い（1920年代）といわれています。その原因の一つは日本住血吸虫症に対する連日注射にあると言われ、発生地とC型肝炎多発地域とが一致しています。すなわち、日本のC型肝炎感染者は世界で最も高齢で感染期間が長いため、発癌率が極めて高いのが特徴です。事実、C型肝炎は年間3万人の肝癌死亡の原因の75%にも上り国民病とも呼ばれました。

C型肝炎は輸血、注射器の使い回し、不衛生なピアス・刺青などが感染経路と考えられています。このため輸血検査と啓発の進んだ今日の日本では新規感染は少なく、40才以下で発見される人はほとんどいません。反面、病院受診者の大半を占める高齢者では未だに約1%いることを忘れてはなりません（図2）。しかも、肝硬変、肝癌になるまで症状がほとんどなく、検査をしなければ発見できません。

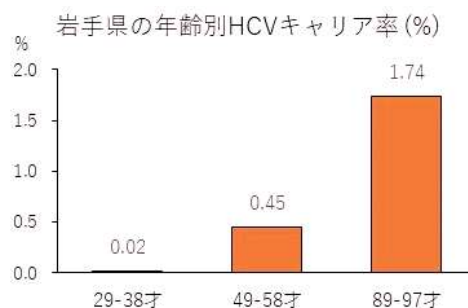


図2

日本でも約30万人のC型肝炎患者がまだ発見されずにいると推定されています。手術は勿論のこと病院での侵襲的な処置に際しては、多くの場合HCV抗体を検査しますので、その結果は陰性であっても患者さんに告知することが義務づけられています。陽性にもかかわらず知らせなかったために数年後に肝癌が発見され、訴訟になったケースも多く報告されています。

発見しさえすればほとんどの場合ウイルス排除できる治療法が開発されたことで、かつて国民病とまで言われたC型肝炎制圧のボトルネックは、健診を担う行政と非専門医による患者発見・専門医への受診勧奨に移ったと言えます。

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤 真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田 由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤 千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

梅雨入り間近、梅雨の季節はうっとうしい気持ちになりますが、雨音は「1/f ゆらぎ」のヒーリング効果があるといわれています。日常の疲れ果てた心や体をリラックスさせる絶好の季節と考えれば、少しは気分も晴れやかになるのではないのでしょうか。

さて、今号は表紙に開設秒読み段階の矢巾新病院の上空写真からはじまり、各センター長のあいさつと盛りだくさんの内容になっています。執筆された方々にこの紙面を借りて御礼申し上げますとともに、沢山の読者の方々からの寄稿をお待ちしております。

(編集委員 佐々木 忠司)

岩手医科大学報 第513号

発行年月日 令和元年 6月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線5452, 5453)

FAX 019-654-7563

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp